

## 第3回宮崎海岸懇談会質疑応答要旨

日時：平成20年2月5日（火）

19：00～21：00

会場：佐土原総合支所

### ○保安林の状況について

- ・資料p9について、保安林が狭まったという項目が付け足された理由を教えてください。  
→砂浜の幅が減少した理由には、海側からだけではなく、陸側からの要因もあることを客観的に示すためである。
- ・住吉地区では保安林拡張計画があると聞く。今回保安林が侵食の原因の一つであると示したのなら、保安林側にもそのことを指摘しているか教えてください。また、侵食対策について保安林側と協議をしているのか。  
→今回は保安林側に指摘ということで示したわけではない。保安林は防潮の役割がある。海岸侵食対策の立場と保安林の立場でお互い情報交換をして、共通意識を持つ努力は行っている。
- ・保安林の事業は、マツクイムシによって松が枯れたために行われている。
- ・戦前は県有林がなく裸地であり、作物を植えていた。植林は戦後始められたと聞く。
- ・資料p43の下にあるグラフについて、2004年の幅で8～10kmの区間は砂浜幅が全くない代わりに保安林の幅が増えていることを表しているのか。  
→保安林の前進だけが侵食理由ではないが、客観的事実を示した結果そのようになっている。
- ・保安林は昭和36～37年あたりに植えられたものだが、現場で見たところそれほど幹が太っていなかった。そのため、保安林が急に前進して侵食に影響を及ぼしたとは考えられない。

### ○汽水域の塩分濃度について

- ・汽水域の塩分濃度、河川の縦断方向、鉛直方向の塩分濃度を定期的に測っておくと、生態系への影響を調べる上で役に立つはず。  
→河川の取水箇所等で塩分濃度を測っている箇所はある。ただ、ご指摘に様な観点からの測定ではないので、このデータがそのような観点から調査できるかも含め今後の参考にしたい。

#### ○干拓について

- ・養浜だけでは波にさらわれてうまくいかないと考えられるので、例えば干拓工学の視点から、面的に囲ってその中で養浜を行ってはどうか。コストもかからないで済む。
- ・宮崎海岸は自然の海岸線が魅力であり、アカウミガメも上陸するので、コンクリートで囲い面積を維持するというのは好ましくない。
- ・囲い方は、天然由来の材料でも可能。方法は色々ある。

#### ○養浜に関する計画・要望について

- ・今後の養浜計画についての考えや具体策を聞きたい。
  - 当面は、大淀川の掘削土砂のストックを使う予定であるが、土砂の調達先や運搬方法等、様々な課題については、3月の委員会で審議したいと考えている。
  - 資料 p 49 の石崎浜の試験養浜箇所（北工区）については、昨年養浜された箇所に浜崖ができていたため、今年はその箇所にある背後養浜土を前面に押し出す予定である。（宮崎県の事業として実施）
- ・養浜の区間と期間について教えてほしい。
  - 期間について、カメの上陸・産卵・孵化への配慮から11月以降しか着手できない。
  - 区間について、石崎浜から北のどこかを候補地として考えている。ただし、土砂をダンプで運搬するための搬入路の確保ができることなど条件が多々あるため、決定はしていない。
- ・毎日侵食されている動物園のそばの住吉海岸を養浜してほしい。
  - 養浜箇所の選択としては、ほとんど砂浜が残っていない海岸（例、動物園周辺）を早急に手当てする考えと、比較的まだ砂浜が残っている海岸（例、大炊田海岸周辺）をこれ以上侵食しないよう維持する考え、の大きく2通りがあるかと考えられる。また、例えば、砂浜を維持するための養浜には細かい砂を活用し、ほとんど砂浜が残っていない海岸には、養浜材が流れにくいよう大きめの粒径の礫を入れる、といった場所に合わせて砂の粒径を選ぶことも検討している。
- ・砂浜が残っている所には、生き物がいる。例えば、11月～3月に置砂をすると、鳥はよくても、その時期に生息する虫が死ぬ可能性がある。目に見えない生物にも注目してほしい。
- ・資料 p 41 で、ダム堆砂から遅れて海岸の侵食が現れていることが示されている。養浜した場合、その効果がでるのも10年近くかかると考えられる。そうであれば、目先のことではなく長期的視点で、砂を残しやすい所ではなく、一番条件が悪い所に失敗しても構わないので養浜し続けるという考え方があっても良いのではないかと。

○その他質問

- ・資料 p 5 2 の断面図の見方がわからない。  
→特定の断面における砂の増減を調査したもの。養浜の効果が多少あるということを示したものである。
  
- ・資料 p 4 3 の写真で今はない所に昔砂丘があった記憶があるが、どなたかご存知なら教えてほしい。  
→仰るところに確か昔は砂浜があった。今ないのは、海底にずり落ちたためかもしれない。  
→原因は、長期的な気象と海象の影響も考えられる。
  
- ・養浜は一時的な対策であり、侵食の根本要因を解決することも必要。養浜土砂を維持するための構造物を作ることだけでなく、根本要因を取り除くことも検討してほしい。  
→養浜以外の対策に関しては、例えば流砂系の委員会で、川から海へ砂を出すことも検討している。ただし、生態系への影響等を考慮する必要があり、すぐに効果を出すことは難しい。砂を留める構造物を作ること現在視野に入れている。
  
- ・川からの砂の供給も大切だが、海へと出た砂が、沿岸流などによって適切に海岸に供給されるかどうかを考える必要がある。港など沿岸流を止める構造物があることも、長期的な視野で議論する必要がある。
  
- ・対策箇所はダシが強く、潮の流れもあるので、養浜だけでは不十分。砂を留める構造物等、別の対策も同時に必要である。
  
- ・(宮崎県全体の地形から見た場合) 対策箇所全体(宮崎県中部の海岸)は凹型に湾曲しており、流れが中央に収束して中央箇所(住吉海岸付近)に沖への強い流れが発生していると考えられる。中央部は侵食が最も激しい。
  
- ・養浜を行っても効果がなければ資金の無駄となるので、考えぬいた対策が必要。
  
- ・国富町の河川流域に葦が群生しており、上流からの砂がたまっている。その砂を試験的に養浜してはどうだろう。
  
- ・宮崎港の北側のマリーナの防砂堤計画について教えてほしい。どの時点で事業は進むのか。事業主体はどこになるのか。  
→現在計画上にはあるが、事業計画は具体化していない。侵食対策の内容が判明した時点で防砂堤の具体的な検討が可能になる。事業主体は目的によって県・国等と変わるので、計画が定まらない時点では何ともいえない。

- ・災害復旧事業で突然工事することはないか。  
→それはない。
- ・検討委員会に地元の人、環境団体を入れる考えはないか。  
→検討の余地がないわけではないが、現時点では考えていない。

おわりに

今回出た意見は、3月18日（火）開催予定の第3回委員会にて提示する。

その他（県からの今年度の工事の概要説明）

- ・石崎浜試験養浜箇所<sup>1</sup>の養浜土の前面押し出しは4月までには終わらず予定である。
- ・離岸堤工事は、現在ブロック据え付け中である。
- ・既設の離岸堤背後に3000m<sup>3</sup>程度の養浜を予定している。
- ・災害復旧工事として行っている緩傾斜護岸の工事（レストハウスの北側）は6月ぐらいまでに完成させる予定である。

以 上